

真鶴半島 春の遠足

2013年4月21日（日）に、栗林さん企画の「真鶴半島 春の遠足」を行いました。参加者は、栗林さん、野村さん、藤保さん、大島さん、高橋です。

当日にはサプライズがありました。集合場所を⇒東京駅東海道線9番ホーム〇時〇分始発の快速アクティとしましたが、何と！この日だけは、JRの東海道線新橋駅拡幅工事のため東海道線の始発が品川駅に変わっていたのです！！インターネットの乗換案内にはこの改修工事による変更は反映されず、「A級将棋棋士にも勝った、人間以上の能力を持つコンピュータさま」を信頼した者は大慌て、結局「入ったものしか出てこないコンピュータ」を再認識した次第です。しかし、アナログな参加者は車内を巡回し連絡をとり、無事集合しました。

真鶴半島は戸山高校の生物・地学などの屋外実習が行われた場所です。東京から約2時間で、真鶴駅に着きました（¥1,620.-）。小さな駅でしたが、さすが観光地、駅前の案内所で地図をもらって、ケープ真鶴行のバスで半島中央の「お林（おはやし）展望公園」に行きます（¥240.-）。



「お林（おはやし）」とは、真鶴半島先端部の萱原だった場所に、江戸時代の小田原藩が、幕府の命により、約15万本の松苗を植林をしたものです。明治維新後は国有林として管理され、今では樹齢200～400年と言われるマツ、クスノキ、スダジイなどの巨木が生い茂る森林となっています。森林は地場産業の漁業にも貢献し、約35ヘクタールは「森林法第25条に基づき指定される魚つき保安林」として手厚く保護されています。真鶴の人々は、この森林を敬意を込めて「お林（おはやし）」と呼んで大切に、遊歩道を整備するなどしています。



真鶴岬の先端の「名勝：真鶴岬三ツ石」に行きました。これは三連の岩礁で、新年の初日の出をその岩の間から見る事ができることから、神聖視され注連縄が張られ、シンボルとなっています。確か、エツコさんの便りで、英国にも七連の岩礁があったと旧友を思い出しました。



神奈川県天然記念物の「ウメボシイソギンチャク」が生息しているそうです。戸山高・生物ご担任の北野先生を思い出しました。

また、当時の先生が盛んに社会問題の映画を鑑賞させたこと、生徒も中間試験の午後などタクシーで新宿の映画館に走ったことなど話題となりました。



真鶴岬の先端には、江戸時代の外国船打ち払い令により、「砲台（台場）の遺跡」がありました。幕末のペリー来訪、に伴う激動の時代、相模湾一帯も外国船の脅威を感じていたのでしょう。



いろいろ歩いて、空腹となり名代の船宿で、昼ごはん＝金目鯛定食を頂きました。とれたての魚を料理するので、人数だけあるかと心配し。大きさが不揃いなのを仲良く譲り合い楽しく食事をし旧交を温めました。（高橋記）

